

平成30年度 徳島県立徳島北高等学校 学校評価 総括評価表

1 本校の学校経営の基本方針

生徒がはつらつと活動する活力ある学校づくりと保護者・地域社会から信頼される学校づくりに取り組み、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身に付けることができる教育の実現に努める。

2 本年度の重点目標

- (1) 自ら学ぶ姿勢と自主的・自律的な行動力を育成する。
- (2) 人権を尊重する豊かな心を育成し、好ましい人間関係を築かせる。
- (3) 授業の工夫・改善と充実に努め、確かな学力を身に付けさせる。
- (4) 生徒一人一人の個性や創造性を伸長させて、進路希望の実現をめざす。
- (5) 国際的視野を持ち、地域社会に貢献できる人材を育成する。

3 本年度の各課・各学年・各教科の取組

(1) 各課

ア 企画課

\* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 総合的な学習の時間の充実を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	・満足していないの回答の生徒に対して、どのような授業を希望しているのか、アンケートを実施し集約してはどうか。  ①次年度入学生からの「総合的な探究の時間」に向けて、計画の見直しと、それを推進していくための職員間の共通理解をする時間が必要である。
	①授業評価アンケートにおける授業満足度について「満足している」と回答する割合を90%以上にする。	①授業評価アンケートでの授業満足度では、「満足している」の回答が、82%であり目標値90%に達していない。	(評定)  B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①探究活動となるように計画を立て実施したが、今後さらに改善する必要がある。	
	① (7) 探究活動を中心とした内容となるよう、指導計画を再構築する。 ① (4) 第2学年において、発表活動の時間を2回以上実施する。	① (7) 2年生の総合的な学習の時間（K-TOPの時間）において課題研究に取り組んだ。 ① (4) 2年生のK-TOPの時間ではグループでの発表を3回実施した。		
2 学校評価においてPDCAサイクルを機能させることにより、魅力ある教育活動を展開し、本校に対する理解度や評価を向上させる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	①②学校評価指標の再検討が必要である。学校評価だけの研修でなく、新しい教育改革を見据えた教員研修を行う必要性を感じている。
	①教育目標についての振り返り・再認識ができるよう、分掌での研修を複数回実施する。 ② (7) 出張説明会や国際英語科説明会への参加者数を昨年度以上にする。 ② (4) 学校評価アンケート「リーフレット等により学校評価の重点目標が明確に示されており学校の教育活動について理解している」について「あてはまる」と回答する生徒・保護者の割合を75%にする。	①学校評価については、4月に分掌に分かれて研修会を実施し、10月には学校評価の必要性について、講師を招いて教員研修を実施した。 ② (7) 出張説明会の参加者は、昨年度比+13、国際英語科説明会の参加者数は昨年度比-1、であった。 ② (4) 学校評価アンケートの結果は、生徒が91%、保護者が69%であった。平均は80%であり達成できたと考える。	(評定)  A	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①学校評価研修会は、方法を変えて行い改善を図った。  ②広報については、PTA総会やホームページでの掲載で生徒・保護者への周知に努めた。	
	①学校評価研修会を、分掌協議を取り入れるなど、内容について改善を図る。 ② (7) 広報・周知に関する活動を充実させる。 ② (4) ホームルーム活動やPTAの会合等の機会を有効に利用して生徒・保護者への周知に努める。	①学校評価の教員研修会は、講師を招いての研修とし、内容の改善を図った。 ② (7) (4) 広報活動については、ホームページで掲載すると共にポスターもわかりやすいものにした。また、PTA総会のときに周知に努めた。		

イ 総務課

\* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 PTA行事を精選し、内容	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	・ホームページを見ない ①学校評価保護者アンケートにおいて「学校の

を充実させることにより活性化させる。	①PTA総会や学年部会の行事への平均参加率を60%以上とする。	①平均参加率は52.4%であり、目標は達成できなかった。参加者数は、昨年とほぼ同数であった。	(評定) C	人に対して、文書で広報・周知してはどうか。PTA関連の行事参加は、日程にも左右されるので、日程については考慮すべき。	広報活動(ホームページ等)を通して学校の様子を知ることができる」に対して「あてはまる」との回答が76.9%あった。周知方法などこれまでの取組をさらに進めていきたい。  ②学校評価アンケート項目と評価指標が合っていないのでアンケートの質問内容の見直しが必要である。
	②学校評価アンケートの、「PTA行事の趣旨説明や活動についての連絡は適切である」について「適切であった」と回答した保護者の割合を70%以上にする。	②アンケート項目になかったため具体的な値は示せないが、案内文書をホームページに掲載する等の対策を行った。			
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①理事数と幹事数の均衡を取る。各会の見直しを図り、内容を充実させる。 ②PTA活動の案内・報告をホームページに掲載し、参加を促す。	①②適切に実施することができた。			

ウ 教務・情報課

\*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標(と活動計画)	評 価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 生徒の多様な進路目標の実現につながる教育課程を編成することで、主体的に学ぶ意欲・態度を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	本校の9割以上の生徒が、大学進学を希望している実態を踏まえ、関係学年・課との連携を図り生徒の進路希望把握に努める。また、大学入試改革(共通テスト等)や新学習指導要領に対応するため、適宜、教科会や教育課程検討委員会、職員会議を開催し、教育課程の編成に細やかに対応したい。 生徒の実態や大学入試制度改革への対応を図りつつ、幅広い進路志望に柔軟に対応できるような教育課程を常に見直ししていく必要がある。そのため、各学年や関係する課との連携を図り、学校全体で見直しを図ることができる体制づくりが重要である。
	①本校の教育課程について、「生徒のニーズや希望を実現できるように工夫されている」と回答した割合を80%以上にする。 ②教育課程検討委員会、職員会議等の開催回数を学期に1回以上確保する。 ③教科会の開催回数を月に1回以上確保する。	①本校の教育課程について、「生徒のニーズや希望を実現できるように工夫されている」と回答した者 (H29→H30最終の比較) ○教員 87.0%→92.9% ○生徒 81.8%→81.4% ○保護者 75.6%→86.3% ②職員会議、教育課程検討委員会は学期に各1回以上確保できた。 ③教科会は各教科月1回以上はできなかったが、必要に応じて開催された。	(評定) B  (所見) コース・科目選択については、予備調査を6月、9月、10月と3回実施したり学年集会での周知、該当生徒を集めての説明会と複数回にわたり、説明し、データ分析等を実施した。しかし、多様な生徒の希望に対応できるよう教育課程で自由選択科目を設けているが、少人数での開講が希望に沿えないという問題点がある。また、本年度より時間割の中に各教科会の時間を設け、教科会の開催しやす環境を作った。	
	活動計画	活動計画の実施状況		
	①各学年や各課と連携し、生徒の学力や進路希望調査等を分析し、可能な範囲で履修学年や開設科目・履修単位数を見直す。 ②教育課程や大学入試センター試験等に関する情報提供・交換や共通理解を図り、生徒の実態把握に努め、適正な教育課程を編成する。	①生徒の成績や進路志望等について学年や各課と情報を共有し、生徒の進路目標や実態に即した教育課程や学校設定科目の設置を行った。 ②教育課程検討委員会、教育課程に関する職員会議等の機会を活用し、共通理解を図った。また、コース・科目選択予備調査を3回以上実施し、生徒の実態把握に努めた。(6月・9月・10月)		
2 生徒の目標を明確にさせ、主体的に学ぶ姿勢を育成することで、学習意欲の向上や学力向上を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	基礎学力不足や、学習意欲不足、明確な目標を持たずに入学してくる生徒の増加が課題である。各課や学年と連携を密にし、適切な時期に学習に対する意欲付けや進路目標を設定できる機会を設けられるよう、行事計画を見直すことも重要である。1学期に比べ、2学期は進度も速くなり、学習内容も難しくなることも影響すると思われるが、夏季休業中から2学期にかけて、中だるみや目標を見失う生徒が増加するこ
	①教員において、教科指導における基礎基本の徹底を図っていると回答した者及び学習意欲の向上や学力向上への取組ができていると回答した割合を95%以上にする。 ②各定期考査において、欠点保持者数を10%以下にする。	①教科指導では、基礎や基本の徹底を図っていると回答した教員。 (H29→H30の比較) 96.3%→98.1% 学習意欲の向上や学力向上への取組ができていると回答した教員。 96.3%→94.4%	(評定) B  (所見) 1・2年で、欠点保持者数は1学期末から2学期で増加とな	

	<p>③各定期考査において、成績優秀者（80点以上）の割合を、25%以上にする。</p> <p>②各学期末における欠点保持者の人数と割合（1学期末→2学期末） 1年（2.2%→4.7%） 2年（5.9%→9.4%） 3年（1.9%→1.3%）</p> <p>③各学期末考査における成績優秀者割合（1学期末→2学期末） 1年（25.6%→20.4%） 2年（20.0%→16.4%） 3年（28/3%→25.1%）</p>			<p>っているが、3学年とも10%以下である。また、成績優秀者は2学期末で1・2年生が25%以下で、25%以上を達成できたのは3年生だけである。また、欠点をとる生徒の固定化や複数の科目での欠点など個々への対応が年々必要になってきており、基礎学力や学習習慣が十分身についていない生徒への対応が急務である。</p>	<p>ることが必要である。</p> <p>とも欠点保持者数の増加の原因の一つと考えられる。粘り強く学習意欲の喚起を行い、スモールステップで目標達成を実感させる取組を継続して行うことが重要である。</p> <p>本校は、進学校であり生徒の進路目標は大学進学ではあるが、生徒の学習実態が伴わない。学習習慣の定着を図り、基礎学力を定着させるために、各教科、学年、各課の連携とともに、家庭との緊密な連携が重要である。</p>
	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>①授業参観週間を設けて（年間2回）、各教科における目標や効果的な指導方法等についての研究を行う。その際、授業評価を行うことで、指導方法の工夫や授業力の向上に努めるとともに、本校生徒の実態や課題について共通理解を図る機会を確保する。</p> <p>②各学期末考査前に「弱点教科補強指導講座」を開講し、苦手科目についてのポイントを指導することで、家庭学習の援助を行う。また長期休業中に「基礎学力養成講座」を開講し、基礎基本の定着に焦点を絞り、苦手科目の克服への援助を行うことで、欠点保持者数を減少させる。</p> <p>③集会等の機会を捉え、継続的な学習及び意欲の向上についての啓発を行う。</p>	<p>①授業参観週間を1学期、2学期にそれぞれ2週間実施した。教科の教員と希望者による授業見学・評価を実施し、評価シートに所見を記入し授業力向上を図った。また、平成29年9月より電子黒板が設置され、教科内でICT機器を活用した授業の研究を行った。</p> <p>②1学期末考査及び2学期末考査の前1週間に「弱点教科補強指導」を開講した結果、中間考査に比べて期末考査の欠点者数の減少につながった。</p> <p>③学年集会や学期末の各課連絡の機会を生かして、学校生活や学習習慣、学力向上等についての啓発を行った。</p>			
3 生徒が明確な目標を持ち、主体的に学ぶ態度の育成ができる学習環境づくりや学校運営を行う。	<p>評価指標</p> <p>①年間行事計画を見直し、生徒の進路目標等、生徒理解が可能なように年間3回の面接週間を確保する。</p> <p>②1・2年の年間授業時数を法定時数の80%以上とする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①各学期1回の面接週間(1週間)を確保した。</p> <p>②平成30年度のデータはなし 平成29年度は1年29.5時数(84.3%) 2年29.6時数(84.6%) 平成28年度は1年29.0時数(82.9%) 2年28.9時数(82.6%)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>年間3回の面接週間の確保や各月1回の校務運営委員会は達成できた。また、年度途中のためデータはないが、本年度は授業カットや短縮授業をできるだけ抑えたので昨年以上に授業確保もできた。</p> <p>学校支援システムについては導入5年目になり、システムの操作性も年々良くなり、ほぼ円滑に運用できるようになった。</p>		<p>面接週間は、短縮授業とし会議を設定しないよう配慮しているが、十分な時間とはいえない。生徒の進路目標や学習実態把握等の生徒理解や、適切なサポートができるよう、今後も行事計画の見直しや精選、関係学年・課との連携を図り、調整をする必要がある。生徒理解に充てる時間確保のため、校務の情報化や見直しなど学校全体で検討することも必要である。</p>
	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>①面接週間をはじめ、担任等が十分生徒理解に努められるよう、行事の見直しや校務の精選、学校支援システムの研究に努める。</p> <p>②各課・学年等と連携を図り、日程等を調整することで、授業時数確保に努める。また、月曜日の授業については、特別時間割に組み込むなどバランスをとる。</p>	<p>①面接週間は5分短縮授業とし各課・学年等と日程を調整し、面接週間中に他の予定を入れないように配慮した。</p> <p>②各月1回の校務運営委員会の機会を捉え、行事予定を月単位で見直し、円滑な学校行事運営に努めた。また、特別時間割で実施授業数の調整を図れるように計画した。</p>			
4 学校支援システムの適正運用に努める。	<p>評価指標</p> <p>①期限までに全ての出欠入力を完了する。</p> <p>②期限までに全ての学事処理を完了する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①期限までに全て完了した。</p> <p>②期限までに全て完了した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p>		<p>学校支援システムを活用するために、出欠処理や成績処理以外の機能や大学入試改革や新学習指導要領にともない調査書等が変わることなど、常により理解を深めるよう努めていく必要がある。</p>

	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 帳票がスムーズに出力できる よう、出欠未入力について連絡を 毎週行っている。	
	①1週間単位で出欠未入力を連絡する。 ②入力方法についての研修や案内をテスト時や 期末に必要な応じて行う。	①毎週実施した。 ②中間審査時に研修を実施した。		

エ 国際交流課

\* 総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評 価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 国際交流に積極的に取り組み、グローバルマインドを持った生徒を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	次年度の重点課題・目標は、物事を論理的に捉え、即座に英語で反応できる生徒の育成を目標とする。次年度も異文化に関する生徒の交流会や意見発表会を実施することで、生徒が自分の意見を発信したり同世代の生徒の意見を聞く機会を設定したい。活動計画は、外部講師を迎えて論理的思考の訓練をするとともに、生徒同士の交流を促進したり、ICT機器を活用することで、海外へ意見発信する機会を設定することとする。
	①異文化学習の機会を年間2回以上提供する。	2回実施できた。	(評定) A	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 論理的なものの考え方、表現の方法やグローバルな視点を実践的な体験を通じ身につけることができた。 オーストラリアやニュージーランドの高校生と交流することで、異文化理解を促進したり、自らの進路を考えたり、英語を使う良い機会となった。	
2 異文化の中で生活できる機会を提供する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	生徒や保護者にとって、より安価で安心して安全に海外研修ができる状況を検討していきたい。また、新たな研修先も検討する。
	①海外研修（語学研修・派遣を含む）の参加者を50名以上にする。	42名が参加。	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 旅行会社や研修先大学関係者と緊密な連携を図って安全で効果的な研修の実施を実現した。	
3 海外姉妹校との交流を活発に行う。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	次年度は、7月にドイツの高校生が来校するので、帰国後の交流について検討したい。
	①ニュージーランド・タイ・ドイツ姉妹校とのグループ交流を1回以上行う。	①ニュージーランド・ドイツとの連絡連携はできているが、タイとはできなかった。	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) グループ交流に関しては、ドイツは時差のため難しい面がある。また、機器の使用に関して課題がある。	
	①希望生徒を募り、Eメールなどを用いて、現地とのグループ交流を実施する。	①ICT機器を活用して、ニュージーランドエルズミアカレッジの生徒と3月に交流する予定で		

ある。

オ 図書課

\*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 図書館の利用をとおり、学力の基盤となる読書習慣の育成を図り、将来にわたって主体的に学ぶ態度や読書を楽しむ態度を身につけさせる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) B	<p>・話題の本を置いたり、できる範囲で、読書の時間を作ってはどうか。</p> <p>自主的に図書館へ行き、主体的に学ぶ態度や読書を楽しむ態度を身につけさせることにつながるよう、授業での図書館活用をさらに推進したい。</p> <p>総合的な学習の時間での図書館や図書館の本の利用もさらに進めていきたい。</p> <p>3年生のクラス読書会を計画し、読書を楽しむ時間を設定する。</p> <p>国語辞典を増やし、活用を図ってきた。来年度も引き続き辞書類の貸出等も推進したい。</p>
	<p>①一人当たりの図書館の年間利用回数を8.0回程度を維持する。</p> <p>②授業での図書館利用を50回程度を維持する。</p> <p>③各教科や総合的な学習の時間に、図書館を利用した授業や図書館の本を活用した授業を推進する働きかけを学期に1回以上して、自主的な図書館利用や、本や雑誌の貸出につなげる。</p>	<p>①入館者はH29年度は7,727人、H30年度は8,850人である。一人当たりの図書館の年間利用回数は9.2回で目標は達成でき、H29年度に比べて約1.1回増加していた。</p> <p>②授業での先生方の計画的な図書館利用が増え、85回あった。昨年度より20回の増加であった。</p> <p>③「購入希望図書カード」を学期に1回は配付して先生方の図書館や図書館の本を利用した授業への推進を図った。個人冊数は323冊、団体貸出冊数は191冊程、昨年度より増加した。</p>	<p>(所見)</p> <p>個人貸出が減少傾向となっているここ数年、授業の中で図書館の本を活用したり、紹介していくことをとおしてきっかけを作り、それを個人貸出にもつなげていくことを、本年度も目標として取り組んだ。これまでの結果として、図書館利用回数や個人貸出・集団貸出共に貸出冊数が昨年度より増加した。特に個人貸出の数が昨年度より増えたことはよい傾向といえる。</p> <p>特別時間割期間中や総合的な学習の時間に、継続して図書館の計画的利用があった。</p> <p>現代の高校生は、読書時間が減っている傾向にあるので、生徒の自主的な読書活動の充実への取組は、さらなる工夫が必要である。</p>	
活動計画	活動計画の実施状況	<p>①(7)「図書館だより」を図書委員のおすすめ本も掲載し、2か月に1回、「新着図書案内」を月1回発行できた。また、ハロウィンやクリスマス等に企画展示も工夫した。また文化祭展示や読書週間の企画に図書委員や先生方のおすすめ本を紹介文と共に展示した。さらに、小論文対策の推薦図書も、リストにしたり展示したりして広報した。</p> <p>①(4)本年度は、家庭においてもより関心を持っていただけるよう「図書館だより」をホームページにあげた。</p> <p>①(ウ)ビブリオバトル、読書会の企画を広く広報し、図書委員以外の参加者も得ることができた。</p> <p>②(7)学期に3回配付して推進できた。</p> <p>②(4)国語科はもちろん、総合的な学習の時間の調べ学習に特に利用があり、貸出にもつながっている。</p> <p>③(7)2か月に一度、または学期ごとの各状況を知らせ関心を寄せてもらった。</p> <p>③(4)各学年主任の先生方に、特に推進を依頼した。</p> <p>③(ウ)何名かの長期延滞者には粘り強い指導が必要であった。</p>		
	<p>①(7)各生徒の進路に応じて読んでおくべき本や、楽しめたり、教養を養える本を充実させ、「図書館だより」・「新着図書案内」や館内・館外掲示で広報する。また、テーマ別の企画展示や特集など、わかりやすい館内・館外展示を工夫する。</p> <p>①(4)ホームページにあげることのできる情報を提供し、より多くの人達に図書館活動に関心を持ってもらう。</p> <p>①(ウ)読書会等の図書館の企画を広報し、多くの参加者を募る。</p> <p>②(7)各教科の先生方に、授業に活用したい本や生徒に読ませたい本の購入希望図書カードを配付して利用の推進を図る。</p> <p>②(4)図書館を利用した授業を、国語科・総合的な学習の時間をはじめ各教科と連携して、読書活動や調べ学習を推進する。</p> <p>③(7)図書館の利用状況、貸出状況を「図書館だより」等で適宜知らせる。</p> <p>③(4)貸出の低いクラスに働きかけ、学年・教科等の組織的な対応を依頼する。</p> <p>③(ウ)長期延滞者に対して丁寧な指導することで改善を図り、継続的な貸出につながる粘り強い指導をする。</p>			

カ 生徒課

\*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 生活習慣の確立を図り、健全な生活態度を育成する	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) C	<p>・望ましい生活習慣の確立のために、家庭としっかり連携・協力してほしい。</p> <p>①頭髪服装が大きく乱れている生徒はほとんどいないが、スカート丈を短くしている生徒や登下校時にブレザーを着用していない生徒が少数見られる。月初めの点検時だけでなく、平日頃から清潔感のある着こなしができるように教員</p>
	<p>①頭髪・服装の違反者を減少させ、再点検指導生徒の割合を0.5%以内にする。</p> <p>②遅刻者の数を昨年度より10%減少させる。</p>	<p>①再点検を実施した生徒は1.1%であった。</p> <p>②2学期末の状況で遅刻数が0.7%減少した。</p>		

	③教員による登校指導を月1回、生徒による「あいさつ運動」を学期に1回実施する。	③学校安全の日における登校指導や学期に1回の挨拶運動を計画通り実施できた。	(所見) ①服装頭髪については数値目標を達成することができなかった。とくに2年生で再点検者が増加した。 ②遅刻者数は年々減少傾向にあるが、早朝補習がない日や雨天時において遅刻が増加した。 ③教員側からの挨拶に対応する生徒は多いが、元気に自発的に挨拶ができる生徒はまだ少ない。	間の連携協力を図りたい。  ②雨天時や早朝補習がない日に遅刻が増加するといった傾向は解消されていなかった。  ③挨拶運動については非常に好評で来年度以降も継続をしていきたいが、早朝補習や定期テスト等があるため、実施時期と時間を検討しなければならない。
	活動計画	活動計画の実施状況		
	①月初めのクラス単位の服装頭髪点検、学期初めの学年一斉指導を実施する。常日頃から清潔感のある制服の着こなしができるように、学年団と連携・協力をしながら常時指導を徹底する。 ②遅刻指導週間を実施するとともに、多遅刻生徒の指導を徹底する。 ③生徒会や生活委員と協力しながら自発的な挨拶を喚起する。	①学期はじめの全体指導やクラス単位での点検を計画通り実施、また廊下等での常時指導により、極端に服装が乱れた生徒は皆無になってきている。 ②月に5回以上の遅刻をした生徒はいなかったが雨天時や早朝補習のない日に遅刻が増加した。 ③生活委員を中心に生徒会や部活動有志とともに挨拶運動が実施できた。生徒自身が本校の状況や挨拶の重要性を再認識できた。		
2 交通ルールを遵守させ、安全意識の向上を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	・自転車の交通ルール等、事故防止に向けしっかり指導を継続してほしい。
	①昨年度の自転車交通事故数(28件)を半減させる。	①自転車交通事故が13件減少した。	(評定) A	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①交通事故の原因については、ほとんどが不注意によるものであった。また、PTA役員の方や関係機関と合同の交通安全指導は実施できた。 交通安全教室が直接的な要因であるかわからないが交通事故数は減少した。	
	①(7)登校指導を月1回以上、徳島北署やPTAとの合同指導を年3回実施する。 ①(4)交通事故の状況について、職員・生徒・保護者の共通理解が図れるよう、情報を提供する。 ①(7)交通安全講話を実施する。	①(7)計画通りの合同指導を実施した。  ①(4)職員朝礼や職員会議で事故の発生と事故状況について職員に連絡するとともに、生徒への注意喚起を行った。 ①(7)年度当初に全学年対象のスタントマンによる交通安全教室を実施した。		①事故状況を見てみると、交差点における前方確認不足や生徒自身の不注意が原因となったケースがほとんどであったので、集会等を通して注意を促したい。事故状況や生徒の状況を分析し改善策を考えなければならない。 次年度も生徒が係わる登校指導を増やしたい。
3 携帯電話の安全な使い方を通して、情報モラルの育成を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	・携帯安全教室で、ぜひスマートフォンの安全な使い方を指導してもらいたい。 ・スマートフォンの適正な使用時間や健康に与える影響等を生徒に伝えてほしい。
	①携帯電話の安全な使い方についての講演会を年1回以上実施する。	①本年度は実施できなかった。	(評定) C	①ほとんどの生徒がスマートフォンを所持し使用しているが、それぞれの使用方法やトラブル等の把握が困難であるため生徒の実態が正確につかめない。指導する側も関係機関の協力を得ながら生徒の実態把握に努めたい。また、新学年の早い時期に「携帯電話安全教室」を実施し、モラルを身に付けさせたい。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①携帯電話安全教室は実施することはできなかったが、それ以外はすべて実施することができた。 ②携帯・スマートフォンが関係した問題行動やトラブルが増加しているが、生徒の実態把握が難しい。	
	①各関係機関と連携し、携帯電話安全教室を行い、情報社会におけるモラルを身につけさせる。 ②「人権教育ホームルーム活動」や「情報」の授業においても情報モラル教育を推進する。	①携帯電話安全教室やホームルーム活動におけるモラル教育や学年集会においてスマートフォンにまつわるトラブル防止等について説明・注意を行った。 ②年間計画に基づいて実施できた。		

キ 人権教育課

\* 総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 ホームルーム活動（人権）の他、委員活動や日々の活動など様々な機会をとらえて生徒の人権意識の高揚を図り、啓発活動に努める。	評価指標 ①「人権意識が高まった」と答えた生徒の割合を80%以上にする。 ②「人権委員会だより」を読んでいる生徒の割合を60%以上にする。	評価指標による達成度 ①「高まった」と答えた生徒の割合は、79.9%であった。 ②読んでいる生徒の割合は53%であったが、前年度に比べると、6%増加した。	総合評価 (評定) B	・長年にわたって積み上げてきた同和問題学習についても継続的に取り組む必要がある。 ・LGBTの理解を深め、その対応についても考えていく。

	<p>活動計画</p> <p>①ホームルーム活動（人権）や行事等で、自分の意見を発言し、他人の意見もしっかり聞くことができるなど、生徒に主体的に参加・体験をさせる。</p> <p>②「人権委員会だより」を生徒主体で作成し、ホームルーム活動の展開にも利用する機会をつくり、家庭にも配布するなど啓発活動に積極的に活用する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①ホームルーム活動（人権）や行事等で、自分の意見を発言し、他人の意見もしっかり聞くことができるなど、生徒に主体的に参加・体験をさせた。</p> <p>②担当教員と内容についてやりとりしながら「人権委員会だより」を生徒主体で作成した。ホームルーム活動の展開に利用できなかったが、ホームルーム活動の振り返りを記事にして共有を図った。</p>	<p>（所見）</p> <p>①について、2学期には人権演劇鑑賞をするなど、生徒の感性に訴える行事があったこともあり、高まったと思われる。ホームルーム活動（人権）では自分の意見・他人の意見を交換することができていた。</p> <p>②人権委員会だよりは、ホームルーム活動の振り返りや演劇鑑賞の生徒感想の特集を組むなど紙面を工夫した結果、読んでいる生徒が少し増えたと思われる。</p>	<p>いく必要がある。</p>	<p>内容を深めていくホームルーム活動を進めるため、教員のホームルーム活動事前研修会の充実を図りたい。</p>
<p>2 全職員でいじめ防止をはじめとする人権教育の充実に取り組む。</p>	<p>評価指標</p> <p>①「いじめは人間として許されない」と100%の生徒が認識している。</p> <p>②「学校は好ましい人間関係の構築のため行事やホームルーム活動・授業に真剣に取り組んでいる」と答えた生徒の割合を90%以上にする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①「いじめは人間として許されない」と100%の生徒が認識している</p> <p>②答えた割合は82%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p>B</p>	<p>・生徒とのコミュニケーションをすることが大事である。</p> <p>・生徒のいいところを教師が見つかることで、自己肯定感の醸成を図り人を大切にすることを育てられるのではないかと。</p>	<p>「人間への信頼」を生徒の心の中に醸成できるよう、委員会だよりや生徒の自主活動を通じていじめを許さない学校づくりをめざす。生徒一人ひとりを尊重し、また面談等を実施し、いじめ防止に取り組む。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①教育活動全体を通じて、お互いの人格を尊重し合える校内環境をつくるため、ワークショップや講演会などを実施する。</p> <p>②生徒の日常の言動と行動に注意を払い不適切な場合は指導する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①教育活動全体を通じて、お互いの人格を尊重し合える校内環境をつくるようにした。学年別のいじめをテーマとした講演会を行った。</p> <p>②生徒の日常の言動と行動に注意を払い不適切な場合は指導した。</p>	<p>（所見）</p> <p>②については、目標には到達しなかったが、前年よりは改善した。教員が日常の言動と行動に注意を払い指導している姿勢が生徒に伝わっている。学年別講演会も生徒に伝わるものがあったことが生徒の感想などに現れている。</p>		
	<p>活動計画</p> <p>①人権教育課は、研修会や講演会を行事計画にできるだけ掲載し、掲載できない分はなるべく早く事前の案内をする。</p> <p>②研究授業を中心に学年別研修を行い、生徒にとって実りあるホームルーム活動にする。また、教科における授業についても人権教育を念頭において実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①人権教育課は、研修会や講演会を学年会で案内し、また行事計画に掲載し、掲載できない分はなるべく早く事前の案内をした。</p> <p>②研究授業を中心に学年別研修を行い、生徒にとって、実りあるホームルーム活動にした。教科における授業についても人権教育を念頭において実施した。</p>	<p>（評定）</p> <p>B</p> <p>（所見）</p> <p>①について、去年に比べ参加割合が若干上がった。概ね参加できてきた。</p> <p>②について、生徒と職員との間に若干の意識の乖離が見られる。</p>		
<p>3 職員の人権研修の機会を多く持ち、人権意識の高揚を図り、啓発に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①職員人権研修の機会を持って、人権意識の高揚を図る。校外の人権研修会への参加を各職員1回以上持つ。または、外部講師を招いた校内研修会に各教員は年1回以上参加する。</p> <p>②職員による人権教育評価において、「普遍的視点からのアプローチ」と「個別人権課題」についてホームルーム活動や教科指導の中で、「実践できた」「だいたい実践できた」と回答した割合を90%以上にする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①校外における人権講演会や研修会（県人権教育研究大会、高等学校人権教育研究大会、徳島市・佐那河内村人権教育研究大会高等学校並びに特別支援学校部会、応神学園人権教育研修会等）に1回以上参加した教員の割合は、84%であった。</p> <p>②実践できたと回答した教員の割合は、91%で生徒への質問内容はやや異なっているが、生徒の割合は80%あった。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p>B</p>	<p>教員の実践活動に役立つような研修の充実をこれからも図りたい。人権教育の最近の動向を知るためにも、校外の研修に参加できるよう取り組み、また、人権教育主事の研修内容で有用なものは随時情報提供を進めていきたい。</p> <p>人権問題意識調査や学校評価アンケート結果を学年研修会で確認し、人権ホームルーム活動での指導に活かしていきたい</p>	
<p>活動計画</p> <p>①人権教育課は、研修会や講演会を行事計画にできるだけ掲載し、掲載できない分はなるべく早く事前の案内をする。</p> <p>②研究授業を中心に学年別研修を行い、生徒にとって実りあるホームルーム活動にする。また、教科における授業についても人権教育を念頭において実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①人権教育課は、研修会や講演会を学年会で案内し、また行事計画に掲載し、掲載できない分はなるべく早く事前の案内をした。</p> <p>②研究授業を中心に学年別研修を行い、生徒にとって、実りあるホームルーム活動にした。教科における授業についても人権教育を念頭において実施した。</p>	<p>（所見）</p> <p>①について、去年に比べ参加割合が若干上がった。概ね参加できてきた。</p> <p>②について、生徒と職員との間に若干の意識の乖離が見られる。</p>			
<p>活動計画</p> <p>①人権教育課は、研修会や講演会を行事計画にできるだけ掲載し、掲載できない分はなるべく早く事前の案内をする。</p> <p>②研究授業を中心に学年別研修を行い、生徒にとって実りあるホームルーム活動にする。また、教科における授業についても人権教育を念頭において実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①人権教育課は、研修会や講演会を学年会で案内し、また行事計画に掲載し、掲載できない分はなるべく早く事前の案内をした。</p> <p>②研究授業を中心に学年別研修を行い、生徒にとって、実りあるホームルーム活動にした。教科における授業についても人権教育を念頭において実施した。</p>	<p>（所見）</p> <p>①について、去年に比べ参加割合が若干上がった。概ね参加できてきた。</p> <p>②について、生徒と職員との間に若干の意識の乖離が見られる。</p>			

ク 特別活動課

\*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
-----------	-------------	----	---------	------------

<p>1 学校行事（学校祭・球技大会等）の活性化を通して、生徒の自主的・自律的な行動を育成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①学校評価アンケートにおいて、生徒一人一人が自己実現の場として学校行事を位置付け、「自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>②学校評価アンケートにおいて、「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」と回答した生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>活動計画</p> <p>①生徒会役員が中心となり各行事計画をたて、全校生徒が自己の役割や責任を自覚し、取り組む態度を育てる。</p> <p>②各行事の事前・事後にアンケートを実施し、生徒自身に自らの取組についての状況を把握させ、今後の活動に生かせるようにする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①学校評価アンケートでは、生徒一人一人が自己実現の場として学校行事を位置付け、「自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合が86.9%となっており目標を達成できている。</p> <p>②学校評価アンケートでは、66.6%となっており目標を達成できていない。昨年度は70.6%であったので肯定的意見の割合が低下した原因を探りたい。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①生徒会役員が中心となり各行事計画をたて、全校生徒が自己の役割や責任を自覚し、取り組む態度を育てる。</p> <p>②各行事の事前・事後にアンケートを実施し、生徒自身に自らの取組についての状況を把握させ、今後の活動に生かせるようにする。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定） B</p> <p>（所見） 学校行事においても、生徒が自主的、積極的に取り組むことができています。アンケートの結果などから、次年度の課題などについても発見できています。しかし、学校評価アンケート「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」という項目の数値から判断すると、肯定的意見の割合が低下したので、生徒の意見を積極的に取り入れていく方策を検討したい。</p>		<p>・学校祭の日程 天候が不安定な時期であり、食品バザーや体育祭などもあり、日程に苦慮するが、進路指導などの観点から大きく変更することは困難であると考えられる。準備期間が不足しないよう、年度ごとにベストな日程を考えたい。</p> <p>・体育祭種目の精選 悪天候による競技の短縮も考えられることから、競技順序や出場人数、男女比を検討し、かなり改善できた。</p> <p>・修学旅行の行先・日程 修学旅行検討委員会で検討している。普通科・国際英語科とともに北海道方面で、徳島空港発着便がとれるよう日程を工夫していきたい。</p> <p>・予餞会 予餞会の日程、内容も検討を要する時期にきている。従来の伝統を生かしながら、より良い方向性を模索していきたい。</p>
<p>2 クラスや部活動のみならず、それらを越えた幅広い人間関係の構築を図り、ゆたかな心を育成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①学校評価アンケートにおいて「あなたは、学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>②教員及び保護者において、生徒が「望ましい人間関係を構築できている」と回答した割合を80%以上にする。</p> <p>活動計画</p> <p>①生徒会や部活動、各ホームルーム委員との連携を図るのみならず、各ホームルームでの人間関係や生徒会や部活動の学年を超えた人間関係を密にさせる。</p> <p>②ホームルーム担任や部活動顧問という立場で生徒の人間関係をよく観察し、適切な方向に導くようにする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①学校評価アンケートでは「あなたは、学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取組、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合は、88.8%となっており目標を達成できている。</p> <p>②学校評価アンケートにおいて、生徒が「望ましい人間関係を構築できている」と回答した割合は86.8%となっており目標を達成できている。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①②生徒会と各ホームルームとの連携を図るのみならず、各ホームルーム内でのクラスメイトの関係や部活動内の学年を超えた関係を密にさせることを目標に取り組んだが、学校評価アンケートから判断できる限りでは、おおむね良好な状態であると考えられる。しかし、さらに注意深く観察していくことが必要である。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定） A</p> <p>（所見） 「学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取組、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合が数値目標を大きくクリアしており、学校内における生徒の人間関係は、おおむね良好な状態であると考えられる。また、「望ましい人間関係を構築できている」と回答した生徒の割合も数値目標をクリアしているため、学年・クラスの枠を超えて、おおむね良好な状態であると考えられる。</p>		<p>さらに、良好な人間関係構築のために、学校行事等でホームルームや生徒会などの活動を通じ、自主的な活動を推進し、生徒同士の人間関係を深めることができるようにしたい。</p>
<p>3 部活動の活性化を通して、生徒一人一人の個性や創造性を伸長させ、何事にも前向きに取り組む態度を育成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①年度当初の部活動参加率を全体生徒の80%以上にのみでなく継続率についても追跡調査する。</p> <p>②学校評価において、「部活動は、学校生活を充実させるものとなっている」と回答した生徒の割合を80%以上にする。また、保護者や教員の回答においても、80%以上にする。</p> <p>活動計画</p> <p>①新入生対象の部活動紹介を充実させる。入部させるのみならず、その後の充実した活動や部活動の継続も促す。</p> <p>②部活動の活動時間を遵守し、各部活動で自主的に積極的な活動が実現できるよう工夫する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①全体生徒の部活動参加率は88%（ただし重複入部を含む）となっており、目標を達成できている。継続率については判断が難しく、十分に調査できていない。</p> <p>②学校評価アンケートでは、生徒78.7% 保護者76.5% 教職員91.0%となっており、教員と生徒・保護者間でかなりのギャップがある。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①1学年の原則全員入部が効果を発揮していると考えられるが、部活動参加率をあげればそれでいいのか、検討が必要な時期にきている。</p> <p>②部活動の活動時間を遵守し、また各部ごとに適切な休養日を設けるなど工夫している。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定） B</p> <p>（所見） 「部活動は、学校生活を充実させるものになっている」と回答した割合は教員においては目標を達成できているが、生徒・保護者においては目標を達成できていない。</p> <p>部活動参加率については、1年生が原則全員入部となっているので、高い割合になっている（重複入部を含む）。</p>		<p>「部活動は、学校生活を充実させるものになっている」と回答した生徒、保護者と、教職員のあいだにギャップがあり、かなりの意識の違いがみられる。この原因を究明し、課題解決の方策を検討していきたい。</p> <p>部活動参加率は高いが、継続率について検討する必要がある。特に1年生は原則全員入部になっているので、登録したものの積極的に活動できていない者もいる可能性がある。</p>

4 国際的視野を広げ、社会に貢献する姿勢を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	来年度も地球市民講座を開講し、充実したものになるよう内容を精選し準備したい。テーマや講演内容を年度当初から検討していきたい。生徒会や部活動も、清掃活動などに積極的に取り組んだが、さらに、日常的に校内美化に努められるよう意識改革したい。各種ボランティア活動にも、生徒会などを中心に積極的に参加できるようにしたい。
	①地球市民講座において事後アンケートを行い「国際的視野を持つことができた」と回答した生徒の割合を80%以上にする。	①感想文という形式で、事後アンケートという形式をとらなかったため具体的なパーセンテージは出ないが、アフリカ(ザンビア)の医療支援をとって世界情勢を知ることの大切さを考えることができていた。	(評定) B	
	②生徒会主催行事あるいは部活動において地域や社会貢献に通じる活動を年3回計画する。	②生徒会やJRC・ボランティア部を中心に各種ボランティア活動に積極的に取り組んだ。	(所見) 本年度も、地球市民講座を実施することができ、生徒の反応などから、かなり充実した講演会になったと考えられる。生徒会や学校行事として、また部活動独自でも、学校内外での清掃活動に、積極的に参加することができた。	
	活動計画	活動計画の実施状況	生徒会、JRC・ボランティア部など、各種ボランティア活動などにも、積極的に取り組むことができた。	
	①昨年度は、かなり充実した地球市民講座が展開できたので、本年度も充実した内容の講演を計画したい。	①本年度は、T100による、アフリカ(ザンビア)における医療支援を中心としたテーマで講演を実施できた。世界情勢に目を向けることの大切さを感じることができた。		
	②JRC・ボランティア部が発足したのでさらにボランティア活動に積極的に取り組むたい。とくしまマラソンのボランティア参加についても継続させたい。	②JRC・ボランティア部が発足したのでさらにボランティア活動に積極的に取り組んでいる。とくしまマラソンのボランティアについても参加予定である。		

ケ 進路課

\* 総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標(と活動計画)	評価	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 主体的な学習習慣と確かな学力の育成を図る。 (1) 家庭学習の習慣化を図る。 (2) 確かな学力を身につけさせる。	評価指標 ①家庭学習(塾等での学習を含む)1時間以上の生徒を80%以上にする。また、各学年で平均家庭学習(塾等での学習を含む)「(学年)+1」時間以上の生徒を50%以上にする。 ②「午後9時までに家庭学習を始める」習慣が身につけている生徒の割合を70%以上にする。 ③「学校の授業内容を理解している」と回答した生徒の割合を80%以上にする。 ④1、2年生の学年単位で、補習の出席率を95%以上にする。 ⑤校外模試における各科目の平均点について、校内平均点が全国平均点以上となるようにする。 ⑥教員の教科指導研修会への参加率を高める。	評価指標による達成度 ①9月の第2回調査では、学習時間が1時間以上は、1年生91.7%(89.6%)、2年生91.3%(89.5%)、2時間以上は、1年生63.7%(69.7%)、3時間以上は、2年生35.8%(54.1%)であった。2年生平日の学年目標以外は達成できている。(括弧内は休日) ②1年生69.6%、2年生72.3%で、概ね達成できている。 ③「よく理解できている」「ある程度理解できている」を合わせると、74.6%で、達成できていない。 ④1、2学期の補習出席率は1年生97.4%、2年生92.9%で、2年生が達成できていない。 ⑤11月の進研模試では、1年生国語+0.5点、数学+2.4点、英語+1点で全て上回った。2年生国語-2.9点、数学-1.5点、英語-1.8点、地歴公民、理科は日本史B、現代社会、地学基礎以外で全国平均を下回った。 ⑥国語、数学、社会、理科、英語の担当者が県内外で開催された教科指導研修会等へ累計22回参加した。	(評定) B  (所見) ①塾等での学習を含めると、概ね目標時間は達成できている。しかし、自分で主体的に取り組む学習の重要性を認識し、家庭学習時間を十分に確保させる必要がある。 ②部活動後、早く帰宅するなど時間を有効に使い、遅くとも9時までに学習を開始する習慣を定着させる必要がある。 ③授業の理解度を向上させるためには家庭での予習・復習の習慣化が必須であり、指導方法の工夫を継続しつつも、生活実態の把握等の適切な指導を充実させる必要がある。 ④遅刻・欠席が一部の生徒に集中している現状があり、保護者とも連携して粘り強く指導していかなければならない。 ⑤1年次では全国平均を上回るも、2年次になると下回る教科が多数、見られる。家庭学習時間の充実から各教科の基本的事項の習得を徹底するとともに、各教科のバランスを考えた学習・生活指導を行う必要がある。	・学習時間調査や生活記録を分析し、個別面談等で、生徒の指導に活用してほしい。 ・「主体的に動く生徒」を育てるための教員の役割について考える必要がある。	①②③家庭での学習習慣の確立 ・1年生第1学期の指導が大きく影響すると思われるので、学年や教科と連携して、進路意識の高揚と家庭学習の重要性を繰り返し伝える。 ・家庭での学習成果を計れるようなテストを作成する。 ・部活動終了後の下校時間を徹底する。 ・予習をして授業に臨む姿勢を養う。 ・生活学習時間調査を活用し、面談を行う。 ・授業で扱うべき内容を精査し、家庭学習と連動することの重要性を生徒が実感できるように授業研究・改善に取り組む。 ④補習出席率の向上 ・学年や担任と連携して早めの指導を行う。欠席が多い生徒は、放課後学習を実施する。 ・遅刻指導と同様に、回数に応じて保護者に来校を依頼し、面談を行う。 ⑤模試で通用する学力の養成 ・定期考査、実力テストの問題を模試や入試につながるよう改善する。 ・模試を分析する学年教科会を実施する。 ・2年生は、理科、地歴公民の補習を2学期から実施するなど補習を見直す。 ⑥教員の教科指導研究会への参加 ・県内外で開催される研修会の情報収集と教員への周知を徹底する。 ・情報や資料を共有できるように、紙媒体およびデジタル形式での保管に努める。 ・科目のバランスを注視し、全ての科目で広く情報を収集できるよう、可能な限りの参加を促す。 ・大学入試改革の情報等を周知・提供し、教科会で話し合うべき題材を具体的に設定する。
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①進路説明会等で、家庭学習の現状とその重要性を保護者に十分理解してもらい、協力を要請する。 ②生活学習記録表や生活実態調査を通して、現状の把握に努める。家庭学習が1時間未満の生徒には、保護者と連携しながらホームルー	①PTA総会と各学年PTAで、調査結果を提示説明し、協力を要請した。 ②月ごとに学習時間調査の集計を作成し、面談週間や三者面談を通して、家庭学習の少ない生徒には指導し、改善に努めた。			

	<p>ム担任が面談を実施し、原因の解明と改善を図る。</p> <p>③「予習」「授業」「復習」の学習スタイルを確立させ、課題や確認テストを実施し、授業内容の理解、定着を図る。</p> <p>④補習に参加することの重要性を繰り返し指導する。遅刻・欠席が目立つ生徒には、ホームルーム担任、学年主任と連携し、段階的に指導を行う。</p> <p>⑤校外模試実施後に訂正ノート提出させるなど、間違えた箇所の見直しをさせる。教科会で模試の検討を行い対策を練る。</p> <p>⑥教科指導研修会の周知を図り、事後は研修内容の共有化を行う。</p>	<p>③日々題、課題、確認テストは、各教科が主体となり実施し、学習習慣の定着を図った。</p> <p>④学年集会や全校集会で、補習の意義や進路意識の高揚について指導した。補習の欠席・遅刻が目立つ生徒には、担任や学年主任と連携して指導にあたった。</p> <p>⑤模試の過去問題配付や訂正ノートについては、教科担任を中心に実施した。</p> <p>⑥国語、数学、地歴・公民、理科、英語において、年間5回以上の教科会を実施し、指導計画や新入試制度の傾向分析などを行った。</p>	<p>る。また大学入試改革の動向を注視し、出題傾向や内容の分析を継続し、授業の進め方等も研究・改善していかねばならない。</p> <p>⑥教科指導研究会等への参加を推進するとともに、情報共有を教科内で徹底する。また教科や科目をまたいでの情報交換も必要で、授業研究会などへの参加を促せるよう情報を提供する必要がある。</p>	
2 キャリア教育を推進し、早期に進路目標を設定させ、主体的に自分の進路を決定させる。	<p>評価指標</p> <p>①1、2年次にオープンキャンパスや看護体験などの体験活動に1回以上参加し、事後の振り返り（記録）を行う生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>②大学の講座や体験授業などに参加する生徒の割合を高め、事後の振り返り（記録）を行う生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>③2年生の11月末の進路調査で、「進路目標が明確になっている」と回答した生徒の割合を95%以上にする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①オープンキャンパス等には、73.1%の生徒が1回以上参加した。</p> <p>②90.2%の生徒が校内外で開催された大学体験講座や体験活動に参加し、進路研究を進めることができた。また1、2年生では全員が振り返りを行い、活動や学びの記録を残した。</p> <p>③1月に実施した進路調査では、全員が進路目標を持っており、進路目標が決まっている。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p>B</p>	<p>・オープンキャンパスの情報を早めに提示するなど、情報提供の強化に努めてほしい。</p> <p>・「進路ニュース」などで卒業して活躍している生徒の紹介をぜひ続けてもらいたい。</p> <p>①③進路意識の高揚と進路目標の設定</p> <p>・オープンキャンパスなどは申込制限を設けている大学も多いので、早めに情報を提供し、参加を促す。</p> <p>・キャリア教育を充実させ、校外の研究会や講座などへの積極的な参加を促す。</p> <p>・目標を明確にし、その目標の達成に向けて、学力を高めていけるよう指導する。</p> <p>・大学進学希望者に対しては、大学入試センター試験の受験を前提に、しっかりと準備に取り組めるよう意識の向上を図る。</p> <p>・進路ホームルーム活動を充実させ、進路実現のためにやっていかなければならないことを浸透させる。</p> <p>②ポートフォリオの推進と活用</p> <p>・ポートフォリオについて、紙媒体およびデジタル形式での併用保存を継続する。</p> <p>・デジタル形式でのポートフォリオの保存状況を定期的に確認し、生徒への個別指導を推進する。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①あらゆる機会を通じて、「将来の自分の生き方」を考えさせるとともに、体験的活動の広報に努め、2年生終了までには必ず1回は参加させる。各課と連携し自主的に職業研究、学問研究、大学・学部・学科研究に取り組ませる。</p> <p>②講座や体験授業などの広報に努めるとともに、振り返りを行うための各種様式を整える。</p> <p>③生徒や保護者に進路情報を提供し、各自の進路目標を設定させ、その実現に向けて主体的に学習する態度を育成する。また、「若楠」や「進路ニュース」を活用し、進路意識の高揚を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①「総合的な学習の時間」と連動させて、キャリア教育を推進している。1年生では大学・学部・学科研究に取り組んでいる。</p> <p>②校内外で開催される講座や体験授業、およびオープンキャンパスの情報を教室掲示等で周知した。またポートフォリオとして振り返りシートを作成し、その記入と保管に加え、デジタル形式での作成も並行して行った。</p> <p>③「若楠」、「進路ニュース」および学年PTAの資料などで、入試情報や合格状況、先輩の合格体験記などを掲載し、進路意識の高揚に努めた。</p>	<p>（所見）</p> <p>①ホームルームでの指導を通してオープンキャンパスの参加を推奨した。全体として、前年度に参加した者の割合に比べ（前年88.7%）、今年度は参加率が低くなった。進路研究の必然性について繰り返し指導する必要がある。</p> <p>②各種行事や長期休業の際には振り返り記録用紙を配布し、記入と保存を徹底できた。また、1年生にはデジタル形式での保存を推進している。今後も継続し、記載すべき内容やその後の学習活動につなげる指導を徹底する必要がある。</p> <p>③2年生は、全員が早期から進路目標を定めている。しかし安易な選択になっていないか等、注視する必要がある。</p>	
3 生徒の個性や創造性を伸長させて、進路希望を実現させる	<p>評価指標</p> <p>①就職希望者や保護者と定期的に面談を行い、2学期末までには、就職未決定者をゼロにする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①就職希望者は2学期末までに、就職内定を頂くことができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p>B</p>	<p>①②③就職希望生に対する支援</p> <p>・就職を強く希望する者に対しては、2年生後半から進路決定や試験対策に向けた、フォローアップする体制やプログラムが必要と考えられる。</p> <p>・4者面談の機会を早期に設け、保護者を含めた情報共有に努める。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①企業就職希望者と早い時期から面談を重ね、希望の業種や職種を絞り込み、希望する企業から求人を得られるよう、精力的に職場開拓を行う。</p> <p>②公務員希望者には、公務員試験対策の専門家を学校に招き講習会を実施し、社会性の確立を目指す。</p> <p>③就職・公務員模試を年間6回実施し、進路を</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①生徒のみならず保護者とも面談することにより、早い時期から希望の進路先への職場訪問を行い、企業の人事担当者との人間関係構築に努めた。</p> <p>②5月に公務員対策の専門家の講習会の実施により、採用試験や就職活動に対する意識の高揚をはかった。</p> <p>③就職・公務員模試については、予定通り実施</p>	<p>（所見）</p> <p>①自分の適性と就職希望先の情報を十分に分析し、望ましいマッチングができるシステムづくりが重要である。そのため保護者にも正しい情報を周知する必要があり、生徒・保護者・担任・就職担当の4者面談の機会を継続していく必要がある。</p> <p>②公務員試験では、一般教養に</p>	

	実現する確かな学力の向上を図る。	し、就職試験へ向けての学力向上につながった。	加え、数的推理や判断推理などの適性検査対策も必要である。校内でも試験に向けて専門的なアドバイスを受ける機会を増やす必要がある。 ③担任との情報共有に努め、就職を希望する生徒の把握とその学力向上のために年間を通じて支援する必要がある。		
4 地域社会に貢献できる人材の育成に向けキャリア教育を推進し、自主的な行動力を身に付けさせる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		①②就職に関する行事等の在り方・就職に対する具体的なイメージを持てる機会を積極的に設けることが必要で、ガイダンスやセミナーを充実させる。
	①就職ガイダンスや公務員セミナーなどの体験的活動を通して、主体的に自ら考える力を育て、就職を希望する生徒全員が、希望する進路を実現できる。	①就職ガイダンスや公務員セミナーでは、情報伝達や意見交換を通じ、就職に向けた心構えの構築を図った。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	①参加者の中には、受動的な態度で受講する様子も見られる。参加生徒に対しては、就職を目指すことへの意識の高揚をはかる必要がある。 ②セミナー等では、講義形式に終始せず、生徒が当事者意識をもって能動的に臨める態勢を継続していく必要がある。		
	①望ましい職業観・勤労観の育成に向け、職業別説明会(1年)、公務員セミナー、就職ガイダンス(2年、3年)等の体験活動により、職業理解や働く意義を学ばせる。 ②卒業後就職したい仕事を自らを見つけ、その目標に向け、継続的に努力し、自主的な行動力が身に付くように導く。	①職業理解や就職に向けた意識作りをたいへん役立った。 ②就職決定以前のみならず、進路決定後も生徒と話す機会を確保し、社会人としての心構えの育成に努めた。			

コ 環境・防災課

\*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標(と活動計画)	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 校外の環境美化及び環境問題に取り組む態度と実践力を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	①こまめに節電・節水の声かけを行い、下校時教室を最後に出るときは、エアコンと空気清浄機の電源を切ることを徹底する。 ②校内で行える身近なボランティアであることを掲示物や呼びかけなどで周知し、参加者の増加を図る。 ③案内や呼びかけを積極的に行い、学校でとりまとめをしない行事については参加生徒本人に申告させて実態を把握する。その際、今年の総合的な学習の時間で使用を始めた、1-u-pレポート用紙を有効に使用する。
	①節電・節水を意識した学校生活を送り、前年度比3%使用量を節減する。 ②年間3回以上「ゴミゼロの日」を設定し、学校全体で環境問題について考えさせるとともに環境・防災委員以外の個人参加者を毎回50人以上とする。 ③校外で行われる環境美化及び環境問題に取り組むボランティア事業の参加を呼びかけ、年間で12名以上の参加者を募る。	①11月現在の比較で、電気使用量1%減、水道使用量9%減。 ②参加生徒数は、6月164人、11月64人、2月は74人であった。 ③随時案内はしたが、とりまとめを学校でしない行事は参加者の把握ができなかった。	(評定) B  (所見) ①例年並みの使用量であった。積極的に節電・節水に取り組む必要がある。 ②1学期の参加は例年多いが、2学期には少なくなるので、中だるみしない工夫を考える必要がある。	
	活動計画	活動計画の実施状況	③案内をするだけに終わってしまった。取組が甘かった。	
	①掲示物や環境・防災委員からの声かけ等により、トイレでの日中の節電や移動教室時の消灯、節水の徹底を呼びかける。 ②校内及び学校周辺、勝瑞駅等の清掃ボランティア活動を、環境・防災委員や部活動生徒が中心となって積極的に行う。 ③積極的な案内を行い、参加を募る。また、その感想や体験談を各クラスに知らせる。	①校内放送による呼びかけ、教室内での呼びかけをおこなった。 ②1学期は3年生の参加も多く、大勢の参加者により実施できたが、2学期は少なかった。 ③案内や呼びかけが不十分であった。		
2 防災教育を推進し、身近に潜む危険から自らを守	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	・防災教育について、来年度も推進してもらいた ①真面目に避難訓練に取り組んでいる生徒が大

<p>るのみならず、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や地域の安全に役立つことができる人材を育成する。</p>	<p>①地震・津波及び地震・火災対応避難訓練を、それぞれ年1回早期に実施する。</p> <p>②環境・防災委員に啓発放送等を行わせて、防災に対する意識を高める。</p> <p>③校外で行われる防災関係の行事を案内し、12名以上の参加者を募る。</p>	<p>①4月に地震・津波避難訓練をおこない、地震・火災対応避難訓練を5月におこなった。12月には、想定外大津波避難訓練を行った。</p> <p>②1学期には毎月放送を行ったが、2学期と3学期は各1回ずつであった。12月の避難訓練時には「新聞紙でつくるスリッパ作り」を環境・防災委員が指導して行った。</p> <p>③案内はしたが、各自参加の行事が多かったので取りまとめることができなかった。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>い。</p> <p>・大災害はいつ来てもおかしくない。重点項目にしっかり防災を位置づけ取り組んでほしい。</p> <p>半であるが、もっと危機感を持って訓練に取り組めるようにする。事前に環境・防災委員による「実施会議」を持ち、意見を反映させて生徒参加による主体性を持たせる。</p> <p>②避難訓練の回数が少ない2、3学期こそ啓発放送の回数を増やす。その際には防災に関する新聞記事などを利用して、タイムリーな話題として防災に対する意識を高める。</p>
	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	<p>(所見)</p> <p>①マンネリ化を防ぐために、火元を変更した。昨年よりも緊張感を持って臨めたと思う。</p> <p>②今年度は2学期にも避難訓練を行ったので、防災について考える時間が取れたと思う。</p>	
	<p>学校行事やホームルーム活動の時間を利用して、専門家の講演やDVD等の防災教材により、様々な危険や災害に、自主的に対応できるよう防災意識の向上を図る。</p>	<p>・ホームルーム活動の中で実施しているのは、津波避難訓練だけで、他は特別時間割の行事で実施している。各回の行事の中では、防災意識の向上を図るプログラムが行えている。</p>	<p>③委員の名称を環境委員から、環境・防災委員と変更したことだけでも、生徒の防災に対する意識は強まった。</p>	

サ 保健・教育相談課

\*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
<p>1 自分の心や体の健康に関心を持ち、課題解決に向けて実践できる生徒を育成する。</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	<p>・「保健だより」にアレルギー対策など健康に関する幅広い情報を掲載してもらいたい。</p> <p>生徒が主体的に自己の健康管理に取り組めるよう支援することが重要である。そのためには家庭との連携が不可欠である。本年度の取組は、昨年度の学校保健委員会においてPTA役員の方々からいただいた御意見を参考に実施した。次年度もさらに発展させるよう取り組み、その結果を保健だより等を通じて家庭へも連絡できるようにしたい。</p> <p>また、生徒課の交通安全教育や環境・防災課の防災教育、保健体育科の保健学習とともに、保健管理や保健教育に取り組み、これからも生徒が心身ともに充実した生活を送ることができるよう支援していきたい。</p>
	<p>①学校評価アンケートにおける「あなたは、自分の心やからだの健康に関心を持ち、健康な生活を送るよう心がけている」に「あてはまる」と回答した生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>②学校評価アンケートにおける「学校は生徒の安全や健康管理に十分注意している」及び「学校では健康や安全に配慮した指導が行われている」について、「あてはまる」と回答した生徒及び保護者の割合を85%以上にする。</p>	<p>①82.9%の生徒が「あてはまる」と回答した。</p> <p>②「学校では安全や健康管理に十分注意している」について、生徒の82.5%、保護者の88.2%が「あてはまる」と回答した。「学校では心身の健康や安全に配慮した指導が行われている」については84.8%の保護者が「あてはまる」と回答した。また、生徒の82.9%が、「心やからだの健康に関心を持ち、健康的な生活を送るよう心がけている」について「あてはまる」と回答した。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>概ね目標を達成することができた。生徒保健委員が主体となって実施する保健ホームルーム活動は、本年度も好評であった。次年度も実施を計画したいと考えている。学校医・学校歯科医とも連携し、更なる保健意識向上のために、生徒の興味関心の高いテーマについても取り上げていきたい。</p> <p>学校保健委員会に生徒保健委員会の代表も参加し、活動を報告した。PTA会長や役員の方からいただいた御意見や御提案を今後の活動に生かしていきたい。</p>	
	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	<p>①(7)定期的に実施できている。</p> <p>①(4)本年度は「歯と口の健康」について展示した。</p> <p>①(ウ)保健委員の進行によるホームルーム活動を11月に実施できた。</p> <p>①(エ)「熱中症予防」と「インフルエンザ予防」についてポイントを説明して配布するよう指導できた。</p> <p>②(7)年間10回発行できている。</p> <p>②(4)生徒の病気やけがの対応は常に連携を取ることができた。</p>	
<p>2 生徒がはつらつとして充実した学校生活を送れるよう支援する。</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	<p>・グリーゾーンも含めて発達障がいの子が増えている状況にある。その対応についても、しっかり取り組んでほしい。</p> <p>スクールカウンセラーが配置されたことにより、教育相談の体制が大幅に充実してきたと思われる。継続的に活用している生徒もいることから、今後の運営のあり方について検討が必要である。</p> <p>また、教育相談室の環境整備も徐々に整いつつある。今後も効果的にカウンセリングができ</p>
	<p>①カウンセリングデーの相談室待機を100%にする。</p> <p>②毎月、不登校傾向にある生徒や気になる生徒の把握をして、カウンセリングの実施等の適切</p>	<p>①カウンセリングデーの相談室待機は100%達成できた。</p> <p>②担任等と適宜連絡を取り、適切に対応した。</p> <p>③スクールカウンセラーと連携し、早期に対応</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p>	
	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	<p>①(7)定期的に実施できている。</p> <p>①(4)本年度は「歯と口の健康」について展示した。</p> <p>①(ウ)保健委員の進行によるホームルーム活動を11月に実施できた。</p> <p>①(エ)「熱中症予防」と「インフルエンザ予防」についてポイントを説明して配布するよう指導できた。</p> <p>②(7)年間10回発行できている。</p> <p>②(4)生徒の病気やけがの対応は常に連携を取ることができた。</p>	

	<p>な支援を図る。</p> <p>③不適応の症状が見受けられる生徒の把握に努め、早い段階で校内の関係者との連携を図る。</p> <p>④人間関係づくりワークショップの実施後のアンケートで「有意義であった」と答えた割合を85%以上にする。</p> <p>⑤特別支援教育の取組を保護者に年2回以上説明する。</p>	<p>した。</p> <p>④83%の生徒が「有意義であった」と答えた。</p> <p>⑤PTA総会で、本校の特別支援教育の取り組みについて保護者に説明した。3月の合格者招集の時にも実施する予定である。</p>	<p>本年度5月からスクールカウンセラーが配置になり、月2回カウンセリングが実施できるようになった。保護者からの申し込みもあり、徐々に浸透してきている。</p> <p>担任からの相談で早期に対応したことにより改善した事例や継続してカウンセリングを受けることにより安定して授業に出られるようになった事例もあった。今後も校内の連携を密に対応していきたい。</p>	<p>よう進めていきたい。</p> <p>スクールカウンセラーとの連携を中心に、校内の連携はもとより、校外の関係機関とも連携を取り、生徒の支援に繋げるよう進めていきたい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①カウンセリングデーの広報をする。</p> <p>②(7) 課内会議やケース会議を随時開催する。</p> <p>②(4) 必要に応じてスクールカウンセラー派遣の要請をしたり、関係機関との連携を図る。</p> <p>③担任・学年団や人権教育課からの情報収集に努め、共通理解を図り、生徒の支援をする。</p> <p>④人権教育課と協力して有意義な実施に努める。</p> <p>⑤PTA総会等の機会を利用する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①保健だよりには毎月カウンセリングデーの広報や心の健康のためのコーナーを作り、気軽な入室を促進した。また、カウンセラーだよりを発行したり、1年生のオリエンテーション時にガイダンスをしたりして広報した。</p> <p>②(7) 課内会議、学年会は適宜行われた。</p> <p>②(4) 月2回来校するスクールカウンセラーと連携し、早期の対応を図った。</p> <p>③適宜連絡を取り、適切に対応した。</p> <p>④1年生対象の人間関係づくりワークショップを人権教育課と協力して実施した。</p> <p>⑤PTA総会で、本校の特別支援教育の取組について保護者に説明した。</p>		
<p>3 食堂やパン販売の利用について正確な情報を伝え、マナーを守った気持ちよい利用の推進を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①食堂の営業日・営業時間の連絡を100%正確に行う。</p> <p>②学期に1回以上は、生徒の利用状況の把握に努める。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①教室への掲示により、生徒へ適切に案内ができた。</p> <p>②厚生委員に意見を求めて参考とした。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>厚生委員を中心に、昼食の摂取状況や食堂・パンの利用状況等を調査し、生徒の意見を反映できるようにしていきたい。本年度、パンの販売を行っていなかった水・金曜日にも販売を行うようにしたい。</p> <p>また、業者と連絡を密にとり生徒に不都合がないようにしたい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①営業日やメニューの教室掲示を適切に行う。</p> <p>②生徒の利用状況を把握するために、必要に応じてアンケートを行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①教室への掲示により、生徒へ適切に案内ができた。</p> <p>②今年度はアンケートは実施せず、厚生委員に意見を求めて参考とした。</p>	<p>(所見)</p> <p>教室への掲示により、生徒へ適切に案内ができた。</p> <p>年度途中でパンの販売日が変更になり、混乱したことがあったので、業者と連絡を密にとり生徒に不都合がないようにしたい。</p>	
<p>4 公共物をマナーを守って利用し、公共心の育成に努める</p>	<p>評価指標</p> <p>①セミナーハウスの使用について、正しく利用できた割合を90%以上にする。</p> <p>②厚生委員会主催の大掃除を年2回は実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①90%以上は正しい利用ができています。</p> <p>②1・2学期末に大掃除を行った。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>利用する部活動とも連携し、さらに適正に使用できるよう注意したい。</p> <p>清潔な環境を維持するため、今後も定期的に点検を行うとともに、意識の向上に努めたい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①(7) 定期的に点検を行う。</p> <p>①(4) 貼り紙等を掲示することで意識の向上を図る。</p> <p>①(ウ) チェックリストを作り点検時に活用する。</p> <p>②1学期末・2学期末に大掃除を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①(7) 適宜点検を行った。</p> <p>①(4) 「セミナー室使用心得」を掲示し、マナーの向上に努めた。</p> <p>①(ウ) チェックリストを作成した。</p> <p>②1学期末に2・3年生の厚生委員と課員の先生方で、2学期末に1・2年生の厚生委員と課員の先生方で大掃除を行った。</p>	<p>(所見)</p> <p>厚生委員による年間2回の大掃除と「セミナー室使用心得」の掲示により、使用状況はよくなったように思われる。今後も利用者が気持ちよく使えるよう環境の整備が必要である。</p>	

5 福祉的な募金活動に協力する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
	①福祉的な募金活動に年2回以上協力する。	①「複十字シール運動」と「手足の不自由な子どもを育てる運動（愛と友情の絵はがき）」「赤い羽根共同募金」に協力した。	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 募金活動について厚生委員が広報し、協力を呼びかけた。自主的に協力してくれる生徒もあり、福祉に対して関心を持ってもらえたのではないと思う。	
6 奨学金の事務処理を正確に行い、奨学金を申請する生徒の進路実現に繋げる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	書類の不備等がないよう注意し、次年度も適正かつ公正に実施できるように努め、生徒の進路実現に繋がるようにしたい。
	①奨学金の事務処理を正確に行い、申請する生徒の100%が正しく申し込み、進路実現に繋げるようにする。	①ほぼ100%適正かつ公正に申請できた。	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 奨学金の申請書類をクラス単位で分担し、複数の課員でチェックする体制をとったので、ある程度は負担が軽減された。情報の取り扱いも慎重にできた。	
	①(ア) 情報提供及び連絡を正確に行う。 ①(イ) 奨学金の校内締切を守らせる。 ①(ウ) 個人情報の含まれる書類の取り扱いには十分注意を払う。 ①(エ) 申請書類を複数体制でチェックする。	①(ア) 情報提供及び連絡を正確に行った。 ①(イ) 校内締切を守らせることができた。 ①(ウ) 鍵のかかる専用のロッカーに保管する、封筒に入れる等の配慮をして、書類の取り扱いには十分な注意を払った。 ①(エ) クラス単位で分担し、複数の課員でチェックする体制をとった。		